

# 福岡県立図書館

## 令和6年度運営状況に関する評価結果

当館が策定している基本方針及び基本計画を踏まえ、令和6年度重点的に取り組んだ事項と関連する指標についての評価を実施し、その結果に基づき運営の改善を図っています。

### 〈〈基本方針〉〉

福岡県立図書館の使命を実現するため、公共図書館をはじめとする県内の各種図書館と連携・協力し、図書館員の専門的能力を生かしながら、資料や情報を収集・保存・提供するとともに、積極的かつ多彩な情報発信を実践します。

#### 目標1：「生涯にわたる学びの支援と情報発信」

幅広く多様な資料・情報を収集・保存・提供し、あわせて多彩な情報発信を行うことにより、県民の学びや課題解決を支援します。

#### 目標2：「子どもの学びと読書へのいざない」

子どもの学びと読書活動の推進拠点として、子どもの豊かで多様な学びを支え、読書の喜びを伝えるお手伝いをします。

#### 目標3：「ふくおかの文化を育む」

福岡県に関する資料・情報を収集・保存・利活用するため、紙資料の収集・保存とともに、デジタルアーカイブの充実を図ることにより、地域文化の継承・発展を支援します。

#### 目標4：「バリアフリーの実現」

県民が、等しく学び、読書に親しむことができる環境を整備することにより、心の豊かさ生きる力を育むお手伝いをします。

#### 目標5：「図書館サービスの推進拠点」

公共・学校・大学・専門図書館やボランティア団体をはじめとする県内の読書関連団体と連携・協力し、電子図書館を含む県全体の図書館サービス向上を目指します。

### ・重点取組の評価基準

評価	内容
☆	計画どおりに実施でき、取組や活動に大きな成果がみられた
◎	計画どおりに実施でき、一定の成果があった
○	改善や課題はあるものの、おおむね計画どおり実施できた
△	取組や活動が不十分であり、計画どおり実施できなかった

### ・指標の評価基準

評価	目標に対する達成率	内容
☆	110%以上	目標が十分に達成された
◎	100%以上 110%未満	目標が達成された
○	90%以上 100%未満	目標がある程度達成された
△	90%未満	目標の達成が十分ではない

## 目標１：「生涯にわたる学びの支援と情報発信」

～ 幅広く多様な資料・情報を収集・保存・提供し、あわせて多彩な情報発信を行うことにより、県民の学びや課題解決を支援します ～

- (1) 専門書・参考図書を中心に紙資料を網羅的に収集するとともに、各種データベースや電子書籍を含むデジタル資料の充実に努め、県民の学び、課題解決に役立つ蔵書構築を目指します。
- (2) 調べ方の案内やレファレンス事例等の蓄積・発信により、国内及び国外の調査研究のための情報共有を促進します。
- (3) 国や県の関係機関等と連携・協力し、県民の学びに役立つ展示や講演会などの共同企画を実践します。
- (4) ホームページやSNS・動画配信等の活用により、多彩で効果的な情報発信を実践します。

### 1 6年度重点取組について

取組の内容	実施状況	評価
<p>(1) 県民の興味・関心に沿った資料の収集と多様な利用方法の提供</p> <p>① 6年度は、重点収集分野のうち「教育・読書」分野に重点をおき、教育や読書に関連する専門書等の収集を行うほか、引き続きワンヘルス推進に関する資料の収集と提供に努めるとともに閲覧室の展示や配布物を通じて、ワンヘルスを推進します。</p> <p>② 各種データベースの活用による図書館利用者の学びや課題解決を支援します。</p> <p>③ 学校に加え、子どもや障がい者の読書活動を支援する団体に対し、電子書籍を活用した支援サービスを実施します。</p>	<p>① 重点収集分野「教育・読書支援」分野資料を 597 冊、ワンヘルスに関する資料を 177 冊収集した。また、第一閲覧室で約一か月、ワンヘルスに関する資料の特集展示を開催した。</p> <p>② オンラインデータベースのアクセス件数は 169,769 件だった。各分野について利便性等の検証を行い、次年度から切り替えを進めた。</p> <p>③ 令和6年度から学校のほか子どもや障がいのある人の支援を行う団体等が電子図書館2号館を活用できる「電子書籍団体利用サービス」を開始し、34 団体が利用した。</p>	◎
<p>(2) 県民の学び、課題解決への支援とデータの活用促進</p> <p>① 紙の書籍とデータベース等の電子情報によるハイブリッドな情報サービスを活用し、レファレンスサービスの充実に取り組めます。</p> <p>② 国立国会図書館運営のレファレンス協同データベースに事例を積極的に登録し、当館の蓄積した情報が広く活用されるよう努めます。</p> <p>③ 非来館でも県民が課題解決を図れるよう、電子書籍においても専門書、参考図書の重点的な収集に努めます。</p>	<p>① レファレンス件数は 48,338 件で、コロナ以前 (H30 実績 47,661 件) を上回った。レファレンスにおいて紙資料のほか電子書籍、契約データベース等の多方面からのアプローチを行うことにより、利用者の課題解決を図ることができた。</p> <p>② レファレンス協同データベースに 12 件のデータを登録した。</p> <p>③ 専門・参考図書を提供する電子書籍サービス「KinoDen」に 148 タイトル、「Librari-E&amp;TRC-DL」において子ども・青少年向け学習参考書等を 100 タイトル追加した。</p>	◎
<p>(3) 県民の学びへの取組や課題解決を支援する講演会を大学等と共同して実施します。</p>	<p>・ 県内公共図書館のほか、九州大学総合研究博物館や元寇資料館等と協働し、「元寇・文永の役 750 年記念事業」として企画展示及び関連動画の制作・配信を行った。</p>	☆

(4)簡易動画の作成をはじめ、ホームページ・SNSのさらなる活用により、当館事業やサービスの積極的な広報を実施します。	・ 当館マスコットキャラクター「ふっきょん」を活用しSNSによる親しみやすい投稿を行うほか、図書館サービスの紹介動画7本、元寇関連の動画1本をYouTubeにて公開した。	○
---	---	---

## 2 指標の達成状況について

指標項目	目標値	6年度実績	達成率	評価
購入予算（一般資料分）に占める専門書・参考図書予算の割合	50%	63%	126%	☆
電子書籍の利用数	47,000冊	90,905冊	193%	☆
レファレンス件数 （ふくおか資料室・子ども図書館を除く）	48,000件	48,338件	101%	◎
レファレンス協同データベースの利用数	280,000件	409,802件	146%	☆
パスファインダーの作成・更新件数 （子ども図書館を含む）	12件	19件	158%	☆
特集展示の回数	28回	29回	104%	◎
展示や講演会などの共同企画に関する満足度	98%	100%	102%	◎
ホームページトップページ アクセス数	860,000回	1,038,646回	121%	☆

## 3 評価及び今後の取組・改善点について

- ・ 重点取組である「教育・読書支援」について、参考図書の出版数が少なく収集が伸び悩む一方、「ワンヘルス」分野は昨年度以上に収集した。
- ・ 電子書籍の利用数については、令和6年度から新たに団体利用サービスを開始したことにより増加しており、引き続き広報等に注力し新規参加団体の加入促進を図る。
- ・ 電子書籍は、専門書や参考図書を提供する「KinoDen」と子ども、中高生及びオーディオブックに特化した「Librari-E&TRC-DL」を提供しており、団体利用数が順調に推移していることから、利用者から需要のある電子書籍の充実を図るため、予算確保に努める。
- ・ レファレンスは、紙資料のほか電子書籍、契約データベース等の多方面からのアプローチを行い、利用者の課題解決に努めた。長期的には来館者の減少が懸念されるため、今後の図書館サービスとして、物理的環境の影響を受けにくい非来館サービスを充実するための検討を図る。
- ・ 当館から、レファレンス協同データベースに登録したレファレンス事例については、409,802件が参照された。今後もレファレンスの質の向上に努める。
- ・ パスファインダーは、予定どおり19テーマの更新を行い、2次元コードを掲載するなど、利便性のある形式にリニューアルした。
- ・ R6年度、元寇・文永の役750年記念事業として企画展示等を関係施設と連携し開催した。放送大学とのコラボ講演会も継続して行う。
- ・ 令和5年度末に行ったホームページの改修により、アクセス数は増加傾向にある。X（旧ツイッター）及びインスタグラムを積極的に活用し当館マスコットキャラクター「ふっきょん」の写真と図書館情報を投稿するなど、図書館から発信する情報に対して多くの県民が興味・関心を集める効果的な広報活動に努める。

## 目標2：「子どもの学びと読書へのいざない」

～ 子どもの学びと読書活動の推進拠点として、子どもの豊かで多様な学びを支え、読書の喜びを伝えるお手伝いをします ～

- (1) 子どもの本を網羅的に収集・保存・提供するとともに、子どもが読書に親しむための取組や技術の充実を図り、子どもの読書活動を推進します。
- (2) 学校や県学校図書館協議会と連携・協力し、子どもの探求的な学習や読書活動を支援します。
- (3) 読書ボランティアの養成や活動を支援し、市町村の子どもの読書活動推進に資するよう努めます。

### 1 6年度重点取組について

取組の内容	実施状況	評価
(1) 多様な子どもたちが利用しやすいアクセシブルな書籍の充実や非来館型サービスの周知を図ります。また、おはなし会、1日子ども図書館員体験や青少年読書推進講座を開催します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>新たに、子ども図書館内にバリアフリー図書を配架する棚を設置するとともに、利用者登録や資料の問い合わせの際に、子どもと中高生向け電子書籍（Librari-E&amp;TRC-DL）を紹介した。</li> <li>毎週定例のおはなし会に加え、こどもの読書週間など、イベントに合わせたおはなし会を開催するとともに、近隣学校等で来館おはなし会や招待おはなし会を開催した。</li> <li>秋の読書週間には、1日子ども図書館員体験を開催した。青少年読書推進講座では、出張プラネタリウムとバリアフリーに関する内容の講演会、ボードゲーム体験・評価ワークショップを実施した。</li> </ul>	◎
(2) パスファインダーやテーマ別ブックリストの作成・更新を行い、学校図書館協議会と連携して各学校での利用促進を図ります。また、ボードゲーム貸出事業等により、学校図書館と連携した青少年の読書推進に努めます。	<ul style="list-style-type: none"> <li>パスファインダーを子ども用に1件新規作成し、青少年用に3件を更新した。</li> <li>青少年の展示に使用した資料を「おすすめ本」リスト一覧としてHPに掲載した。</li> <li>ボードゲームの貸出事業では、31校85件を貸出し学校図書館との連携に努めた。</li> </ul>	◎
(3) 児童サービスの専門研修「子どもと読書」研修会などを実施します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>入門講座では例年同様に講義と実践による研修を開催した。</li> <li>専門講座ではブックトークについての講演を実施するとともに、希望者に実演に対する評価を行うなど、児童サービスに携わる者の実践技術の向上に努めた。</li> </ul>	◎

### 2 指標の達成状況について

指標項目	目標値	6年度実績	達成率	評価
定例おはなし会参加者数	850人	933人	110%	☆
子ども図書館レファレンス件数	4,100件	3,973件	97%	○
子ども図書館・青少年コーナー特集展示等リスト作成回数	50回	39回	78%	△
子ども情報ルームの学習目的利用数	700件	703件	100%	◎
子ども読書に関するボランティア研修会参加者数	160人	141人	88%	△

### 3 評価及び今後の取組・改善点について

- ・ 学校図書館協議会と連携し学校に対する貸出サービスの広報を行っており、当館のサービスを周知している。
- ・ 指標については、概ね目標に達することができた一方、達成できなかった指標について検証した上で、適切な目標設定を行う。
- ・ 2つの研修会では、会場の収容人員から定員を100名に設定し、52名（①「子どもたちに手渡したい多様な絵本の世界」）と75名（②「経験者のためのブックトーク講座」）の参加者となった。①については、後日Webによる配信を行い125回の再生数であった。コロナ過以降、研修のオンデマンド配信のニーズがあるため、全ての県内図書館関係者に対して学びの場を提供できるよう、講演者に対する許諾の手続きを行い、許諾後の研修動画等の配信に努める。

### 目標3：「ふくおかの文化を育む」

～ 福岡県に関する資料・情報を収集・保存・利活用するため、紙資料の収集・保存とともに、デジタルアーカイブの充実を図ることにより、地域文化の継承・発展を支援します ～

- (1) 福岡県に関する紙資料の収集・保存と並行して、デジタル化を主とする資料の媒体変換を行い、市町村と協力して県全体としてのデジタルアーカイブを構築することにより、福岡県独自の資料・情報の利活用と情報発信を推進します。
- (2) 福岡県に関するレファレンス・ツールの作成とレファレンス事例の蓄積により、国内及び国外の福岡県に関する調査・研究を促進します。
- (3) 地域の出版社や書店と連携・協力し、福岡県に関する出版物等を収集・保存し、利活用のための情報発信を行うことにより、地域文化の継承・発展を支援します。

#### 1 6年度重点取組について

取組の内容	実施状況	評価
(1) 当館が所蔵又は受託する資料をデジタル化し、ホームページに掲載します。また、閲覧に支障をきたす資料のデジタル化による複製など原資料の保存に努めます。	・今年度は障がい福祉課との協力により、合併前の市町村の行政資料等多数のデジタル化をすることができた。	○
(2) 郷土資料に関するレファレンス事例を、ホームページ及びレファレンス協同データベースに追加掲載します。また、地域に関する人物・雑誌記事のデータベースの充実を図ります。	・レファレンス事例を20件、当館データベースとレファレンス協同データベースに追加した。 ・人物・雑誌記事については新たに2,094件の入力、公開ができた。	◎
(3) ホームページにおける地域の書店と出版社を紹介する項目の充実を図ります。	・ホームページで紹介した地域の書店をSNSで紹介した。	◎

#### 2 指標の達成状況について

指標項目	目標値	6年度実績	達成率	評価
ふくおか資料室の質や量についての利用者満足度	95%	96%	101%	◎
デジタルライブラリへのアクセス数	17,000件	23,283件	137%	☆
ふくおか資料室でのレファレンス質問件数	4,800件	4,727件	98.5%	○
国立国会図書館レファレンス協同データベースへの登録件数	20件	20件	100%	◎
ふくおか資料室に掲載の出版社のページへのアクセス件数	2,400件	3,319件	138%	☆

#### 3 評価及び今後の取組・改善点について

- ・ 重点取組と指標について概ね目標を達成する中、デジタルライブラリ及び福岡県内の書店・出版社のページなど、Web上のコンテンツへのアクセス数が大きく増加した。デジタルライブラリについては、まとまった資料の追加をしていないものの、前年度から6,000件ほど増加した。また、雑誌記事索引や人物文献の登録は長期的にのちの調査に役立つことであるため、今後とも取組を継続していく。

#### 目標４：「バリアフリーの実現」

～ 県民が、等しく学び、読書に親しむことができる環境を整備することにより、心の豊かさと生きる力を育むお手伝いをします ～

- (1)「障害者差別解消法」、「読書バリアフリー法」などに適切に対応したサービスや設備の改善を行うことにより、誰もが使いやすい図書館を目指します。
- (2)読書に困難がある人へのサービスとして、大活字本やデージー及びマルチメディアデージー図書・ＬＬブック・音声読み上げ機能付電子書籍等を収集・提供し、情報アクセスの向上に努めます。
- (3)さまざまな理由による情報格差を解消するため、先進的な情報技術の活用も視野に入れ、利用案内や検索支援等、県民の情報リテラシー（情報の利活用能力）向上のための情報提供を行います。
- (4)福岡県で生活する外国人へのサービスとして、また、県民との相互理解を深めるため、日本を紹介する資料や外国語資料の充実に努めます。

#### １ ６年度重点取組について

取組の内容	実施状況	評価
(1)障がいのある人の図書館利用に対し、適切に合理的配慮が行えるよう、職員の資質向上及び設備等の改善を図ります。	・ 第一閲覧室内に音声読書器とプレクストーク（録音図書の再生機）を設置するとともに、バリアフリー図書を利用できるスペースを設けた。また、バリアフリー資料や機器を利用できる場所全体を「バリアフリースポット」とした。	○
(2)読書に困難がある人への読書機会の充実と情報発信 ----- ① 読書に困難がある人の読書機会の充実のため、多様なバリアフリー資料の収集と提供に努めます。また、バリアフリー図書読書体験会を通じて、バリアフリー図書や機器の広報に努めます。  ② ボランティア活動を支援しデージー図書の製作に取り組むほか、製作資料が広く活用されるよう、国会図書館の視覚障害者等用データ送信サービスに積極的にデータ登録を行います。	① 紙の本による読書に困難がある人向けの資料として、大活字本 128 タイトル、LLブック 5 タイトル、デージー図書 110 タイトル、マルチメディアデージー 4 タイトルを収集したほか、電子書籍においてオーディオブックや音声読み上げ機能付コンテンツを 554 タイトルを収集した。また、バリアフリーサービスを周知するために、バリアフリー図書と最新機器の体験会を福岡市（2 回）、春日市、久留米市の合計 4 回開催し、約 520 名の参加があった。 ② 当館の録音図書製作ボランティアと連携し、108 タイトルのデージー図書の製作を行ったほか、新刊や図書館案内等の情報発信に努めた。また、国立国会図書館へデージー図書データを 194 タイトルを追加登録し、39,179 回利用された。	◎
(3)障がいの有無にかかわらず、誰もが利用しやすいホームページとなるよう改善を図ります。	・ 音声の読み上げ、色の変換及び文字サイズの調整機能を新たに追加した。	☆
(4)福岡県で生活する外国人の日本語の習得や文化の理解に役立つ資料の収集に努めます。また、県内各地の外国人に対する読書機会の提供のため、外国人向けの電子書籍の充実に努めます。	① 英語で書かれた本や外国人に日本文化等を紹介・解説した本を中心に、148 冊を収集した。 ② 英語を中心に多言語対応のコンテンツのほか、日本語以外を母語とする人向けの日本語習得用コンテンツ 74 タイトルを収集した。	☆

## 2 指標の達成状況について

指標項目	目標値	6年度実績	達成率	評価
読書に困難がある人向け図書の受入タイトル数 (電子書籍以外)	240 タイトル	242	101%	◎
読書に困難がある人向けコンテンツの提供数 (電子書籍)	900 タイトル	554	62%	△
録音図書貸出点数(個人団体全件)	2,300 冊	2,193	95%	○
国立国会図書館視覚障害者等用データ送信サービス 利用数(当館登録分)	35,000 件	39,179	112%	☆
検索支援のページ(ホームページ)へのアクセス数 (調べものをするページのアクセス数)	4,300 回	3,864	90%	○
障がい者サービスのページ(ホームページ)へのア クセス数	2,300 回	2,178	95%	○
外国人向け及び外国語図書の受入数	140 タイトル	148	106%	☆
外国人向け及び外国語コンテンツの提供数 (電子書籍)	30 タイトル	74	247%	☆

## 3 評価及び今後の取組・改善点について

- ・ 読書に困難がある人向けの書籍数は少ないため、出版情報に留意し計画的に収集した。
- ・ 電子書籍の選書時にオーディオブックや読み上げ機能対応のフォーマットのコンテンツに留意し収集したが、全体的に購入数が少なかった。
- ・ 国会図書館へのデジタイズ登録数の増加に伴い利用数も増加傾向であるため、全国的な利用傾向に注視し分析を図り、利用者を継続して確保する。
- ・ 外国人向け図書及び外国語図書の収集について、重点的に収集に取り組み、74 タイトル収集した。
- ・ 6年度末に設置されたバリアフリー機器に関する利用促進に取り組む。
- ・ 福岡市、春日市及び久留米市で、バリアフリー図書読書体験会を開催した。今後、開催していない地域にも積極的に働きかけるなど、県内全域の活動となるように取り組む。
- ・ 令和5年度末に行ったシステム更新を契機に、当館ホームページをスマートフォンで閲覧しやすい形式に改修したほか、読書バリアフリーのページへのリンクをわかりやすい位置に移動するなど、デザイン上の工夫を重ねている。また、令和6年度には、音声読み上げ、色の変換及び文字サイズの調整ができる機能を新たに追加した。引き続き障がいの有無にかかわらず、わかりやすいページの作成に努める。

### 目標５：「図書館サービスの推進拠点」

～ 公共・学校・大学・専門図書館やボランティア団体をはじめとする県内の読書関連団体と連携・協力し、電子図書館を含む県全体の図書館サービス向上を目指します ～

- (１)研修事業を充実するとともに、図書館運営等に関する情報提供や各種相談に対応し、新たなサービス等についての調査研究を行うことにより、県内公共図書館等職員の育成支援と技術の継承を図ります。
- (２)資料配送業務を含む「福岡県図書館情報ネットワーク」の運営により、相互貸借や共同研修の企画など、図書館の館種を越えた連携・協力を推進します。また、電子書籍の本格的導入により、非来館型サービスを展開し、ネットワークの充実を図ります。
- (３)図書館ボランティアと連携し、ボランティアの育成を支援することにより、官民の垣根を越えた図書館サービスの充実を目指します。

#### １ ６年度重点取組について

取組の内容	実施状況	評価
(１)レファレンスサービス、資料の整理補修及び郷土資料全般についての研修会を実施し、市町村図書館等職員の資質向上を図ります。	・レファレンスサービスに関する研修を、初級（21名）、中級（27名）に分けて開催した。 ・資料整理補修研修は20名が受講し、聴講希望者が8名いた。 ・新規事業として、図書館職員向けにデータベースや電子書籍を活用した課題解決スキルの向上を目指すデジタル資料活用研修を実施し、11名の受講があった。	◎
(２)福岡県図書館情報ネットワークの運営により、相互貸借等館種を越えた連携・協力を推進する環境の整備に努めます。	・県内の市町村立図書館のほか、大学等とも連携し、資料の相互貸借を行った。	◎
(３)ボランティア養成講座等を実施し、図書館サービス向上に資する人材の育成及び資質向上を図ります。	・音訳ボランティア従事者の資質向上を図る研修会を集合形式で実施し、後日動画を配信した。参加は84名、配信は98名が希望し、220回視聴された。	◎

#### ２ 指標の達成状況について

指標項目	目標値	６年度実績	達成率	評価
図書館職員等対象研修参加者満足度	100%	98%	98%	○
県内公共図書館等への職員派遣（講師・委員・相談等）回数	60回	59回	98%	○
資料配送業務の取り扱いコンテナ数	6,700個	6,723	100%	◎
「福岡県図書館情報ネットワーク」の参加館数	68館	68	100%	◎
市町村図書館等が利用した横断検索数	123,000回	73,906	60%	△
ボランティア向け研修参加者数(点録協等含む)	280人	265	95%	○

#### ３ 評価及び今後の取組・改善点について

- ・市町村立図書館等の職員研修の満足度は100%と高い評価を得た。今後も図書館職員のニーズを捉え、充実した内容の研修を企画・実施するとともに、県内公共図書館等職員の資質向上に資するよう努める。
- ・指定館受取、電子書籍といった非来館型サービスのニーズがあるため、Web利用登録の周知に努める。

## ～ 用語の説明 ～

### ○ レファレンス（サービス）（1 頁、2 頁、3 頁、5 頁）

利用者が情報あるいは資料について図書館員に尋ねる質問。来館の利用者からの質問だけでなく、手紙、ファックスなどの文書による質問、電話、電子メールなどの通信手段を利用した質問もある。

図書館員がレファレンスを受けて回答することは、レファレンスサービスの中心的な業務である。

### ○ パスファインダー（2 頁、3 頁）

あるテーマについて調べるときに役立つ資料（図書・雑誌・データベース・ウェブサイト）や情報の探し方を簡単に紹介したもの。

紙での提供のほかホームページ上でも公開している。

### ○ レファレンス協同データベース（1 頁、2 頁、5 頁）

国立国会図書館が全国の図書館等と協同で構築している。

調べもののためのデータベースである。

### ○ ボードゲーム体験・評価ワークショップ（3 頁）

少人数のグループでボードゲームを体験し、体験したボードゲームを評価する参加型イベント。評価項目は「わかりやすさ」、「楽しい?」、「ゲーム中のコミユカ」、「本の紹介につなげやすい?」などがある。

また、参加者の購入の検討やイベントの企画、交流の手段にもなっている。

### ○ 定例おはなし会（3 頁）

当館が行っている以下の3つをいう。

#### 〔1 赤ちゃんのおはなし会〕

- \* 水曜日 午前11時から
- \* 奇数週（第1・3・5週）は0歳児向け、偶数週（第2・4週）1・2歳児向けの内容。
- \* わらべうた・手遊びなどを、赤ちゃんと一緒に楽しむプログラム。

#### 〔2 小さな子のおはなし会〕

- \* 土曜日（第1・3・5週） 午後2時から
- \* 布の絵本、絵本、紙芝居、おはなしなどのプログラム。

#### 〔3 小学生のおはなし会〕

- \* 毎週 土曜日（第2・4週） 午後2時から
- \* ストーリーテリング、絵本などのプログラム。

### ○ デジタルアーカイブ（5 頁）

有形・無形の文化財をデジタル情報として記録し、劣化なく永久保存するとともに、ネットワークなどを用いて提供すること。

### ○ 大活字本（6 頁）

弱視者用に大きな活字で印刷された図書。大型活字本ともいう。実際には、印刷方式にかかわらず、文字の大きな図書の総称としても用いられる。高齢者の利用もある。

### ○ デイジー（6 頁、7 頁）

デイジー（DAISY）とは、Digital Accessible Information System の略称。

活字による読書が困難な人々のためのデジタル録音図書の国際標準規格である。

○ マルチメディアデイジー（6 頁）

パソコン等で「聴きながら読む」ことができる電子書籍。  
音声と一緒に文字や画像が表示される。

○ 障害者差別解消法（6 頁）

「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」の通称。

障害者基本法の基本理念に沿って、障がいを理由とする差別を解消するための措置などについて定めた法律。

障がいのある人に対する不当な差別的取扱いを禁止し、行政機関や事業者に対して合理的配慮の提供を求めている。

○ 読書バリアフリー法（6 頁）

「視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する法律」の通称。

「障害の有無にかかわらず全ての国民が等しく読書を通じて文字・活字文化の恵沢を享受することができる社会の実現に寄与」することを目的とし、国や自治体に視覚障がい者等の読書環境を整備する責務などが定められている。

○ LLブック（6 頁）

LLはスウェーデン語で「やさしく読みやすい」を意味する言葉の略。「えるえるぶっく」という。

知的障がいや学習障がいなどがある人々も楽しめるよう、内容を理解する助けとしてイラストや写真、記号を多く添えた本。

○ 福岡県図書館情報ネットワーク（8 頁）

県内の公共図書館及び図書室等で「相互貸借」のネットワークを構築しており、自館に所蔵していない資料を他館から借りることが可能である。

また、県内公共図書館等の蔵書の横断検索システムと連動し、横断検索の結果、所蔵館に対してインターネットを介しての貸出申込みや回答が可能である。

【参考文献等】（順不同）

- ・ 図書館情報学用語辞典 第4版
- ・ 国際交流基金国際センター図書館のしごと
- ・ 国立国会図書館データベースホームページ
- ・ 小学館デジタル大辞泉